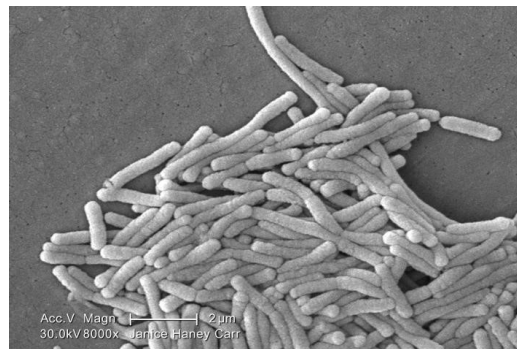


社会福祉施設等のレジオネラ対策

【レジオネラ症は高齢者が罹りやすい病気です】

レジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染（飛沫感染）します。ヒトからヒトに直接感染することはありません。病型は、劇症型のレジオネラ肺炎と一過性のポンティアック熱の2つに分類されます。流行は季節によらず、高齢者に多く発生しています。

高齢者、糖尿病、慢性呼吸器疾患、悪性腫瘍、血液疾患、重喫煙者、大量飲酒者、免疫抑制剤使用者、臓器移植後、自己免疫疾患など感染防御機能が低下した人は、感染すると肺炎を起こしやすいため、特に注意が必要です。



レジオネラ属菌の電子顕微鏡写真(出典: CDC/ Margaret Williams, PhD; Claressa Lucas, PhD; Tatiana Travis, BS)

【入浴設備のレジオネラ対策】

社会福祉施設では、入浴設備でレジオネラ属菌が大量に増殖したことが原因でレジオネラ症の感染につながる事例が過去に多くありました。現在でもレジオネラ症患者の感染源として調査をした際に入浴設備などからレジオネラ属菌が検出することがあります。

レジオネラ対策として入浴設備の適切な管理を継続して行いましょう。

循環型入浴設備のメンテナンスのポイントは以下のとおりです。設備によって管理すべき場所が違うので、取扱説明書をよく確認しましょう。

循環型入浴設備

浴槽水をろ過装置などに循環させて水質を保持する機能のある入浴設備のこと。循環する配管やろ過装置などの清掃・消毒が必要。

清掃

レジオネラ属菌が増殖するバイオフィルム（裏面参照）を除去するために、浴槽や水位調整などの補助水槽、集毛器などの清掃をしましょう。



検査

現状の管理でレジオネラ属菌の増殖を抑えることができているか確認するために、レジオネラ属菌の水質検査を定期的に行いましょう。

レジオネラ検査

陰性

消毒

浴槽水の残留塩素濃度を維持するために濃度の測定をしましょう。(0.4 mg/L以上)

配管の消毒のため、週1回は残留塩素濃度を高濃度(10 mg/L程度)にして数時間循環させましょう。



換水

浴槽水は毎日交換しましょう。換水の際には水を残さず排水してから新しい水を入れましょう。浴槽以外のタンクなどに残っている水も排水する必要があります。



風呂の水ぜんぶ抜く大作戦

※入浴設備と給湯設備の管理について



詳しくは「社会福祉施設等におけるレジオネラ症予防対策（改定版）」を参照してください。

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kankyo/eisei/yomimono/shakaifukushishisetu/shakaifukushishisetu-reji.html>



(お問合せ先)

東京都多摩府中保健所
生活環境安全課環境衛生担当
電話 042-362-2334(代表)

【超音波式加湿器に注意！】

超音波式の加湿器は、気化式加湿器と異なり周辺に大量の細かな水の飛沫を飛散させる上に、蒸気式加湿器のように加熱しないため管理が不十分な場合レジオネラ属菌を飛散させることがあります。

また、安価で簡単に使えるため、危険性を知らずに安易に使用してメンテナンスを怠りやすく、社会福祉施設で使用していて、実際に感染源になったことがあります。

一般的な加湿器のメンテナンスのポイントは以下のとおりです。

なお、装置によって異なる場合があるので、取扱説明書をよく確認しましょう。

○ タンク内や水の触れる場所を洗浄・消毒する

触ってぬるぬるしている場合は、「バイオフィルム」ができています。そこではレジオネラ属菌が寄生するアメーバ類が増えていることがあり、レジオネラ属菌が増殖します。

ぬるぬるがなくなるまで洗浄し、洗浄後に次亜塩素酸ナトリウムや消毒用エタノールで消毒しましょう。

○ タンクの水はつぎ足さず、毎日交換

つぎ足すと菌がそのまま残るので、つぎ足し続けるとより多くの菌が繁殖することになり、時間の経った水は雑菌が繁殖していることがあります。

タンクに入れた水は、毎日交換しましょう。

○ 乾燥させる

レジオネラ属菌は乾燥に弱いので、定期的に乾燥させる時間を作りましょう。

○ 使用終了時、再使用時に洗浄しましょう

加湿が必要な季節が終わったら、保管する前にしっかり洗浄しましょう。また、保管してあった加湿器を使い始める際にも洗浄しましょう。

○ 水道水を使いましょう

ボトル水は塩素消毒がされていないので菌が繁殖しやすいです。

加湿に使用する水は、消毒されている水道水の使用をお勧めします。



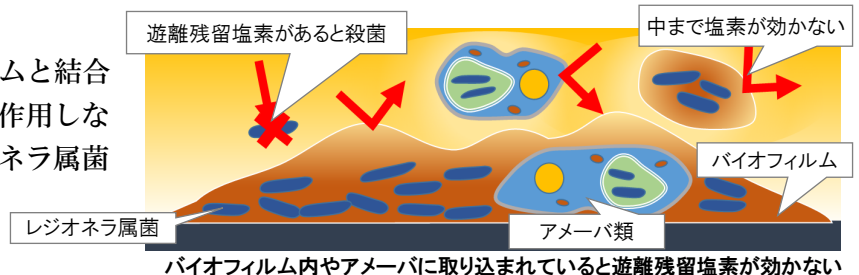
【消毒しているのになぜレジオネラ属菌がいるのか】

浴槽水に消毒用の塩素剤を入れていて、遊離残留塩素濃度がレジオネラ属菌を殺菌できる 0.4 mg/L を超えて管理しているにもかかわらず、水質検査をするとレジオネラ属菌が検出されることがあります。

○ バイオフィルムに守られて生き残る

バイオフィルムは水気のある場所の「ぬるぬる」のことで、様々な細菌やその死骸、細菌の分泌した物質、水分中のミネラル分の混合物です。

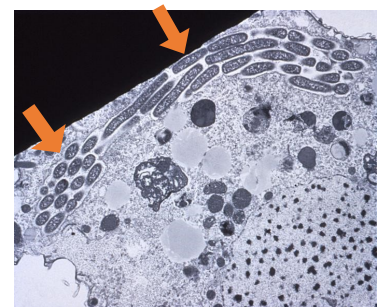
水中の遊離残留塩素は、バイオフィルムと結合しますが、表面には作用しても中までは作用しないため、バイオフィルムに隠れたレジオネラ属菌が生き残ります。



○ 遊離残留塩素に強いアメーバ類

アメーバ類には塩素消毒に耐性のあるものがあります。水道水やプール、浴場で使われている 1.0 mg/L 程度の濃度では死滅しません。そのアメーバにレジオネラ属菌が寄生していた場合、そのレジオネラ属菌も生き残ります。

レジオネラ属菌を含んだバイオフィルムやアメーバ類が水質検査で採水する際に含まれると、水の遊離残留塩素濃度が保持されていてもレジオネラ属菌が検出されることがあります。レジオネラ属菌を含んだアメーバ類もレジオネラ症の感染源になりうるのでアメーバ類やバイオフィルムの発生を防ぎ、除去するなどの対策が必要です。



アメーバ内で増殖するレジオネラ属菌
(出典: CDC)

「ぬるぬる」を除去するために定期的に清掃・消毒をしましょう